

274 中央大学武道大会

〔法学新報〕第21卷1(238)号 明治44年1月1日

○中央大学武道大会 例年十月を以て開かるべき同会は校舎増築工事の都合に依り十一月二十七日を以て開催せらる時恰も各校の仕合は殆んど終了して本年に於ける其殿りを為すこととなりたれば他校も其送るべき選手の優良なるものを選び中央大学側も亦之を聞て其練習最も猛烈を極めたれば開会に先ち活気場の内外に満ち観者何れも片唾を呑んで控へたり時刻到るや剣道部は新築第二十六号室に於て先づ校内の猛烈なる紅白勝負あり

飯田久一氏は六人を倒して優勝者と為り次て市内中学校選手の仕合に移り独逸協会学校の木間氏七人を倒して一等賞を得昼飯後帝国大学、早稲田大学、明治大学、日本大学、慶応義塾、第一高等学校、高等師範、高等商業、高等工等、外国語学校、美術、水産、東洋協会、青山師範等の選手来り中山資信、今泉来藏の両師は勿論根岸信五郎、山里忠徳、高野佐三郎、佐藤義遵、檜山義質、北島辰一郎、鈴木鉄造、上加世田成吉等の諸氏審判の任に当りて三本勝負を開始し吉田春夫氏対松保善助氏は松保氏の勝、座田重孝氏対三浦知足氏は座田氏の勝、矢野藤助氏対幹徳郎氏は幹氏の勝、山田捨一氏対伊藤泰文氏は山田氏の勝、日本大学三浦兼光氏対高山卓郎氏は三浦氏の勝、青山師範尾内繁三氏対三富浜太郎氏は一勝一敗尾内氏面を得て勝、外国語学校内村堤寿氏対日本大学小川七郎氏は小川氏面を得て勝、青山師範下村常雄氏対久保田貞二氏は久保田氏小手を得て勝、外国語学校佐藤寛吾氏対飯田久一氏は佐藤氏面を得て勝、高等学校大島氏対川名敏雄氏は川名氏胸を得て勝、高等学校須賀吉之助氏対宮地文吉氏は須賀氏小手を得て勝、丸田兼松氏対駒崎巳代吉氏は駒崎氏小手を得て勝、外国語学校海保文吉氏対三富浜太郎氏は三富氏小手を得て勝、水産講習所本田光吉氏対每熊祐次郎氏は每熊氏胸を得て勝、水産講習所吉田潔氏大前寛明氏は大前氏面を得て勝、高等工業大鷹恒一氏対長山三朗氏は小手を得て大鷹氏の勝、美術学校蓮花宗次氏対莊司勇氏は面を得て莊司氏の勝、高等師範島田氏対播摩運宜氏は胸を得て播摩氏の勝、美術学校寺島恕氏対佐藤信義氏は一勝一負勝敗遂に決せずして

引分、明治大学江連力三郎氏対宇野良之助氏は胴を得て宇野氏の勝、第一高等学校吉井誠一氏対重戸信好氏は小手を得て重戸氏の勝、高等学校の勇将宇野慎三氏は当日の武運拙なかりしにや本学守屋剛二氏の為めに脆くも胴及び小手を得られて零敗し、早稲田大学高橋利和氏対武藤秀三氏は小手を得て武藤氏の勝、慶応義塾後藤忠治郎氏对本間甚作氏は本間氏脆くも面を得られて零敗す、早稲田大学寺沢信計氏対武藤秀三氏は胴を得て寺沢氏の勝、東洋協会吉田健一氏対美阪翁助氏は面を得て吉田氏の勝、高等商業池内又一氏対沖津有喜世氏は面を得て沖津氏の勝、早稲田大学稲垣太吉氏対東洋協会山口正賢氏は面を得て山口氏の勝、高等師範杉山通太郎氏対金矢光一氏は小手を得て杉山氏の勝、明治大学上田潔氏対高等学校稲月氏は勝負決せずして引分、早稲田大学木村良一氏対湯野川国左右氏は小手を得て木村氏の勝、次は高等学校の勇将鈴木英正氏と高等工業の猛将高野気次郎氏との決戦ある筈なりしか高野氏差支の為め加藤氏代り面及小手を得られて敢なき敗を取りしは遺憾なりし、次は東洋協会の大將井芹武吉氏対有信館の驍将森川文三郎氏は激戦数刻井芹氏胴を得森川氏は面を得ること二回にして遂に森川氏の勝に帰したり、次は早稲田大学の二刀家大日向篤氏対慶応義塾繁田儀八氏は大日向氏面を得て勝、次は高等工業の驍将中島正信氏对有信館に左る者ありと知られたる牧昌次氏は激戦数刻互に勝敗あり遂に決せずして引分、次は第二高等学校に於て麒麟児の称ありし帝国大学野村益雄氏対慶応義塾の驍将大沢次郎氏は互に勝敗ありしか遂に再び面を得て野村氏の勝、次は慶

応の驍将大石勝一郎氏对本学の勇将湯野川国左右氏なり湯野川氏朝来兎角気鋭揚らざりしに拘はらず満身の勇を振り小手を得て勝、次は美術学校の大將橋本久米次郎氏対慶応義塾の勇将竜岡栄氏は橋本氏更に振はず小手及び胴を得られて零敗せしは遺憾なりし、次は外来大山氏対金矢光一氏は胴及び小手を得て金矢氏の勝に帰したり帝国大学生たる学員水野秀は今や各校を通して勇猛無前の称あり高等商業の大將鳥飼正安亦名声噴噴たり此日始めて両雄の会戦を見るを得て二氏の出場するや拍手急霰の如し鳥飼善く闘ふも遂に面を得られ再戦して小手を得意氣大に揚かる三戦水野危く面を得て勝敗既に決す夫れより更に両氏の間数番の勝負ありて鳥飼氏尚ほ未だ遜色なき能はさるか如何りし最後に早稲田の大將市原真次氏と本学の大將矢沢謙氏との決戦ありしか矢沢氏近く慈親を喪ひ意氣毫も揚らず一呼吸して面及胴を得られしは頗る遺憾なりし高点勝負に移りては早稲田大学市原氏学員大前氏各四点学生三浦、美阪、飯田の三氏各三点にて決勝の結果一等市原二等大前三等美阪に決定し夫れより今泉師範に大沢、井芹、高橋、中島、市原の五人掛三本勝負ありて遂に今泉師範の勝に帰し喝采声裡に終了し伊藤会長訓辞を述へて優勝者に賞品の授与ありしは午後六時過なりし柔道部に在りては第二十三号室に於て午前九時より森新治、山之内勝治の二氏を大將として紅白勝負を挙行し雄壮なる仕合を為して遂に白組の勝利に帰し一等賞村上大郎氏二等賞杉阪鎮吾氏三等賞田代信徳氏に決し昼飯後帝国大学外十二校の選手陸續として来り横山作次郎、山下義昭の両氏を始めとし半田師其他

高段諸氏交々審判の任に当りて三本勝負を開始し講道館阪本蔵人氏对上野不二雄氏は坂本氏勝、外国語学校扇昌夫氏対久能木慎二氏は勝敗決せずして引分、高等工業佐藤東洋男氏対朝川邦雄氏は朝川氏の勝、錦城中学校石黒成時氏対青山師範足立鉄雄氏は石黒氏の勝、深田道場平野氏対莊司勇氏は莊司氏の勝、美術学校渡辺信介氏対青山師範小野隆三氏は小野氏の勝、独逸協會本橋二雄氏対小出善次氏は本橋氏の勝、美術学校専頭憲太郎氏対深田道場町田国三氏は町田氏勝、独逸協會繁田氏対講道館奥田氏は勝負決せずして引分、講道館駒井氏対川口清氏は同様引分、の^(マ)独逸協會武田薫氏対講道館林氏は武田氏の勝、高等商業大竹謙氏対唐沢真一氏は大竹氏の勝、東洋協會北条熊人氏対高等農学校高田操氏は高田氏の勝、高等商業猪間信一郎氏対香川敏徳氏は勝負決せずして引分、講道館尾越氏対佐野実氏は佐野氏の勝、独逸協會二色義之助氏対明治大学山室寅一氏は二色氏の勝、講道館渡左近氏対伊知地太郎氏は勝負決せずして引分、深田道場酒井鈔次郎氏対加藤寅吉氏は加藤氏の勝、講道館白藤奈良雄氏対清水礼三氏は勝負決せずして引分、独逸協會阿部邦夫氏対河野虎雄氏は阿部氏の勝、青山師範島崎進氏対深田道場仙波氏は島崎氏の勝、高等商業瀬戸幸三郎氏対渡辺求氏は勝負決せずして引分、講道館駒沢鉄之助氏対谷口敬吉氏は駒沢氏の勝、錦城中学校富田楽氏対江藤徳氏は富田氏の勝、深田道場中野泰助氏対粕谷勇太氏は中野氏の勝、講道館船井氏対独逸協會加藤薫氏は勝負決せずして引分、講道館駒井氏対独逸協會石山成晴氏は駒井氏の勝、高等農学校坂田氏对上原慶氏は坂田氏の

勝、講道館三原氏対大沢竜雄氏は勝負決せずして引分、高等学校河口太郎氏対講道館高尾氏は高尾氏の勝、独逸協會黒沢秀氏対深田道場倉田信氏は倉田氏の勝、慶応義塾近岡源三氏対羽鳥甲斐雄氏は近岡氏の勝、錦城中学校金野房雄氏対独逸協會森六太郎氏は勝負決せずして引分、講道館村井頭八氏対田代信徳氏は村井氏の勝、講道館藤原忠治氏対東洋協會野村東洋男氏は藤原氏の勝、明治大学中尾判治氏対吉田秀氏は吉田氏の勝、高等学校川上氏対播摩運宜氏は播摩氏の勝、高等師範袴田集義氏対青山師範岩田文吉氏は袴田氏の勝、高等学校小倉源次郎氏対講道館中垣輝氏は小倉氏の勝、高等学校杉村英三郎氏対村上撰郎氏は杉村氏の勝、独逸協會宮尾氏対東洋協會木代拙郎氏は勝負決せずして引分、講道館平山敬三氏対庄司繁次郎氏は勝負決せずして引分、高等学校鈴木友彦氏対八重野松男氏は勝負決せずして引分、高等学校鈴木友彦氏対八重野松男氏は勝負決せずして引分、外国語学校齊藤甲七氏対杉坂鎮吾氏は齊藤氏の勝、高等商業丹下氏対森新治氏は丹下氏の勝にて無段者の勝負をし伊藤会長は起て懇篤なる訓辞あり次て斯界の「オーゾリテー」嘉納治五郎先生は本会の為め忙中を割て臨席し柔道に関する講話ありて後ち七段山下義昭氏を對手として柔の形を演せられ満場為めに感奮せざるなし伊藤会長は再び起て嘉納師範に對する謝辞を述べられ夫れより三段大野六郎氏と初段宮田進氏は投の形を演し初段妹尾幸造氏と初段稲川三郎氏は固の形を演し四段宮川一貫氏と半田義磨師は五の形を演せられ夫れより有段者の勝負に入り初段講道館田代包吉氏対同高等師範大谷武一氏は田代氏の勝、初段早稲田大学中垣繁氏対同講道館志村光治氏は中

垣氏の勝、初段慶応義塾山本忍己氏対同本学小野庄次郎氏は勝負決せずして引分、初段帝国大学宗像久敬氏対青山師範今泉清氏は今泉氏の勝、初段日本大学寺田一郎氏対同講道館別府氏は勝負決せずして引分、初段深田道場上原氏対早稲田大学久米氏は久米氏の勝、初段独逸協会辻徳夫氏対同早稲田大学苦米地貢氏は辻氏の勝、初段東洋協会村上栄太郎氏対同本学妹尾幸造氏は妹尾氏の勝、二段山内沢太氏対同高島義直氏は勝負決せずして引分、二段高等農学校斉藤良三郎氏対同本学浦井繁氏は勝負決せずして引分、二段東洋協会渡辺一二氏対同講道館永島主殿氏は勝負決せずして引分、三段帝国大学新庄魏氏対同本学大野六郎氏は大野氏甚た不利の地に陥りしも奮闘多時勝負遂に決せずして引分、最終に四段慶応義塾石渡泰三郎氏に本学大野三段、丹波二段、浦井二段、妹尾初段、宮田初段の五人掛りあり宮田、妹尾二氏は敗れしも浦井二段奮闘して見事なる跳腰にて石渡四段を破りたる時は喝采場も崩れん有様にて本日の仕合を終了したり而して此優勝者は一等浦井氏二等妹尾氏に決し伊藤会長より賞品を授与せられ一同万歳を唱へて退散したるは七時を過くる頃なりし

第五回の武道大会は了れり朝来凛烈なる霜を踏て来り会せられたる各中学校専門学校の剣柔両選手諸君は各自体面を重し終日奮闘力戦して些か倦怠の色なく何れも倒れて後ち已むの概あり観者をして手に汗を握らしむるもの幾回なるを知らず予輩は此点に於て謹て戦士諸君に敬意を表せざるを得ず又会長閣下……剣道に於ては根岸老先生を始め諸先生我中山資信今泉来蔵の両

師柔道に在ては嘉納師範を始め諸先生我半田義磨師……諸先生の熱心なる指導に由り過る三十九年已来年年我校に於ける斯道の發展を来して漸く斯界の雄を称せらるるに至れり且つ世上の誹議紛紛たるに拘はらず我体育会員は一点其汚染なく歩武整整たるは偏へに諸先生感化の賜なるを感謝す現に見らるる如く勝負を曖昧に付し商売的武道家を参加せしめす弟子にして師を冒すなく後輩にして先輩を凌辱するものなく我会員の質実にして浮華ならず邪念を存せずして直情径行なるを喜はざるを得ず今や滔滔たる弊風は実に耳にするを恥つるものあり幸に諸君は徒に勝負の末に汲汲たらず人慾の邪念に齷齪たるなく武道即ち士道なりとの心を持し此弊風を打破することを念とし益々奮奮して今より来るへき第六回大会の準備あらんことを切望して止まざるなり(委員報)